

令和7年度第1回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議
議事要旨（父島・母島）

■ 父島：令和7年6月25日（水）午後4時00分から5時30分まで

小笠原村役場本庁舎会議室A

■ 母島：令和6年7月7日（月）午前10時30分から12時まで

小笠原村母島支所大会議室

■ 議事

- ・（1）小笠原村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の実施状況について（報告事項）
資料1を用いて事務局より説明

（2）令和7年度の取り組みについて

1）家庭用生ごみコンポストの普及

- ・アカギなどの樹木の製材にも相当なエネルギーを要するため、コンポストは箱タイプではなく土堀が一番ではないか。
- ・生ごみを回収している村民活動を支援できるとよい。
- ・生ごみのみ減らすとごみが燃えすぎて焼却炉への負荷がかかる。生ごみのみでなく、プラスチックも合わせて減らす必要がある。

2）ごみ処理施設の視察会

- ・父島、母島の各施設の視察を終えてから合同会議を行った方が議論しやすい。

3）脱炭素まちづくりアドバイザー

- ・10月の来島時に村民向けの講演会が開催できるとよい。

（3）意見交換

資料1を用いて事務局より説明

1）現時点でゼロカーボン推進に関する活動として、どのようなものがあるか？

【父島】

- ・小笠原中学校の生徒会と小学校の児童会がペットボトルキャップを回収して本土の団体に送付して、障がい者や発展途上国の支援に活用してもらい取り組みを実施している。
- ・社会福祉協議会が運営するあゆみの店は、自立支援をきっかけに始まったが、現在は不用品のリユースを行い、ごみ削減に貢献する取組である。

【母島】

- ・社会福祉協議会がバザーを年1回、不用品のリユースを行っている。

2）今後、新たに広がると良い活動としてどのようなものが考えられるか？

【省エネ】

- ・海のツアーで1名2名しか予約がなくても催行しているが、複数ツアーがある場合、これらをまとめて1隻にできれば船の燃料費も無駄にならないし、スタッフも休みが取りやすくなる。こうした動きを行政が推奨してくれると観光業者としても取り組みやすい。
- ・脱炭素も大事だが、植物を増やして温室効果ガスを多く吸収する取り組みも必要である。
- ・島は高低差もあるのでハイブリット車が普及すると、エネルギー使用量が減るのではないか。ハイブリット車が島でも省エネに貢献することやメンテナンスもガソリン車同様に行えることを証明して普及出来ると良い。企業を誘致して試験などできないか。
- ・入港日の買い物の車の相乗りについて、近所や仲間で声掛けできると良い。

- ・歩いて行けるところでも車に乗っていることがある。同じ道でもバイクにするだけでガソリン代がかなり減った。荷物や雨などの課題はあるが、削減の余地はまだある。

【ごみ削減】

- ・子ども達のごみ捨ての啓発等に関するポスターを作成するのを支援できると良い。
- ・建設事業者がかなりの資材をストックしていることが多い。これらを島内で利活用できる仕組みがあると無駄に購入したり、廃棄したりすることが減るのではないかな。
- ・終活に関連して不要なものを持たない暮らしを推奨している。終活に関わらず島での暮らし全般で、不要なものを持ち込まないという意識が高まるとよい。
- ・赴任者が引越しの時期に不用品が多く出される。村の暮らしで何か必要で何が不要か分かりにくい面もあるかと思うので、赴任者に「持ってきたが不要だったもの」を聞き取り、新規赴任者に通知することで、不用品の持ち込みを減らせないかな。
- ・イベント用の資材が劣化してマイクロプラスチックが発生したことがある。できるだけ良いものを長く使ったり、劣化する前に買い替えたりする意識が広がるとよい。
- ・イベントの際に飲み物をウォータージャグで出していたが、今はペットボトルで出すようになった。コロナの影響もあるが、ペットボトルもごみとなるので削減できるとよい。
- ・島トマトと島卵のパックについて、一部は回収してリユースしている。取組に協力が得られるかどうかは不明だが、広がるとごみ削減につながる。
- ・パッションの梱包材も安全の為にかなりの量を入れている。衝撃に弱い果物なので、必要なものだが、何とか解決策がないかと思う。

3) これらの活動を開始する・広げるために不足しているものは何か？

- ・観光協会や農業協同組合、漁業協同組合など各団体で、削減可能性について話し合う機会を設けられると良い。各会議に行政から議題を提供してはどうか。
- ・普及啓発については、村民だよりでは読まない人も多い。SNSや動画など様々な媒体で、各自がいつでも入手できるような情報発信を行う必要がある。
- ・誰でも分かりやすい具体的な目標値があると、取り組みやすいし成果も分かりやすい。
- ・環境によいということだけで人が動くのは難しい、何か楽しいことやコスト削減などメリットを示せることが重要である。

以上